



発行  
豊中市人権教育推進委員協議会  
機関紙編集部  
(豊中市教育委員会事務局社会教育課内)  
電話 06-6858-2580



結成 50 周年



～ 過去の入選作品より ～

巻頭言

「結成 50 周年を迎えて」

会長 島田 忠雄

このたびの新型コロナウイルスに罹患された方、感染拡大により生活に影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。

今年度の人権協の活動につきましても例年より縮小させて進めてまいりました。そんな中、本年は結成 50 周年という節目の年を迎えました。広報とよなか 10 月号のひゅうまん通信のページでも取り上げていただいております。結成の経緯や、50 年の歩みについても紹介されています。これまでのその時代の変化に合わせた人権問題の解決に向けた取り組みや今後の活動、推進委員さんの声についても掲載されました。

新型コロナの影響で新たな差別問題も起こりつつある今日の中で、何が必要とされているか今一度見つめ直していきたいと思っております。

一方、学校現場では、この4月より、第六中と第十中が統合されて、新しく「庄内さくら学園中学校」が誕生しました。学校スローガンとして、「一人ひとりが強いつながりをもてる学校 ～『自治の力』を高め、未来を切り拓く～」がうたわれています。この庄内さくら学園中学校は、3年後には小中一貫の義務教育学校「(仮称)

庄内さくら学園」につながっていく学校として、豊中市の学校における仲間作りの場を先駆的に作っていく場になります。今後、縦のつながりが育つ義務教育学校「(仮称)庄内さくら学園」が掲げるのは「自ら考え、行動し、仲間とともに豊かな社会をつくる子ども」と聞いています。そのため、「つながる力、まなぶ力、つくる力」の三つのキーワードにおいて、学校、家庭、地域が一緒になって子どもを育てていくことを人権協も進めて行きたいと考えています。

最後になりましたが、平素より皆さま方には、人権協活動を通して、人権啓発活動の推進・発展にご尽力いただいておりますことを、この場をお借りいたしまして、心よりお礼申し上げます。



# 人権教育をすすめる市民の集い

(豊中市人権月間参加事業)

## 開催要項

- 主 旨 豊中市人権教育推進委員協議会は  
すべての市民の人権意識を高め  
より人権尊重の輪を広げるため  
「市民の集い」を開催します。
- 開催日 令和2年(2020年)11月5日(木)
- 時 間 13:00～15:30(受付12:30～)
- 会 場 豊中市立文化芸術センター大ホール



## プログラム

意見発表 五中校区

Talk Session

Human Rights Talking ～音楽@人権～

佐藤 竹善さん(シンガーソングライター) × 池田 なみ子(DJ 豊中出身)

## 申し込み方法

往復はがきに代表者の住所と名前(返信用も)、催し名、電話番号、参加人数(2名まで)を書き、〒561-8501 豊中市教育委員会事務局社会教育課までご応募ください。10月22日消印有効。抽選あり

- ★当日会場では新型コロナウイルス感染症対策のため、密にならないよう人数制限を行います。
- ★新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、マスクを着用しこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。
- ★当日、発熱、せき、のどの痛みなどのある方は参加をご遠慮ください。

## コラム

会 計 大岩 枝美

2020年が明けたときには、この現状を誰が想像したでしょう。私自身、3月初めに発熱があり「家族や会社の人に感染させていたら」と思うと気が気ではありませんでした。そんな私でも会社で感染者が出ると、頭ではわかっているが「この人が…」という感情が芽生えてしまい、自分でもショックでした。感染者はもとより、医療従事者、クラスターが発生した施設の関係者は、誹謗中傷などいわれのない攻撃を受けていると聞きます。自分や家族を守りたいという気持ちからなのか、閉塞感が漂う世の中になると、他人の人権を無視する行動が露呈されることにとっても悲しくなりました。

今年、豊中市人権協会は発足から50周年を迎えました。感染防止対策を講じて、11月5日には「人権教育をすすめる市民の集い」を実施致します。50周年を節目として、気持ちを新たに「人権」とは何かを日々考えていきたいと思っています。

また1日も早いコロナ感染拡大の状況が終息してほしいと願うばかりです。

# 活 動 方 針

機関紙「じんけん」には情報があふれています。表紙を飾る児童のポスター、巻頭言には結婚差別についての調査結果から、部落差別が過去の問題でないことに触れ、差別をなくす学びの大切さについて論じられています。現地研修は実に多彩です。大阪地方裁判所、防災センター、生野コリアタウン、アンネフランク記念館、京都ライトハウス、大阪水上隣保館等、テーマは広く人権から防災、児童虐待等、市内にある「翼」児童養護施設にも研修の場を広めています。

11月「人権教育をすすめる市民の集い」。記念講演からネット社会に潜むさまざまな問題について語られました。子どもたちが夢中となるネットのバトル・ロワイヤル型対戦ゲーム、ネットといじめ、大学生が対面をさせて食事をする「ぼっち席」、若者の実態に驚かされました。良好な人間関係が築けないネット依存症への警鐘です。

集いのメインは校区意見発表です。生徒と共にクリーン作戦から始まり、ふれあいフェスティバルや朝ごはんの会、PTAや地域ボランティアとの協働、子育てを支えるネットワークが根付くつあります。機関紙「やさしさ宅配便」が普及し、人権の輪が浸透しつつあることへの報告に感銘を受けました。温かい地域に支えられ、4月から庄内さくら学園が誇らしく開校しました。

12月は「世界人権デー 駅頭啓発活動」。市長や会長を先頭に、市内各駅で早朝よりポケットティッシュとミニカレンダーの配布を行っています。地道な活動ですが、世界各地でシンポジウム等の啓発活動が行われています。

2020年4月に人権協は発足50周年を迎えました。1970年に起きた田辺事件(結婚差別事件)を契機に結成された人権協は、その後「豊中市人権擁護都市宣言」を制定するなど大きく発展します。50年という歴史はたゆまない努力と人権意識の高揚が活動を支えています。

これからも機関紙「じんけん」が皆さまの校区に届くよう、まことに日に新たに、日々新たに、また日に新たに、共に歩んで行きましょう。

## 2019年度 基礎講座より (機関紙 157号より抜粋)

### 豊中市人権協のあゆみと今後の課題

元豊中市教育委員会人権啓発指導員 新堀 祥一



基礎講座を受けて、今まで何気なく自分がしてきた行動や考え方が「これで、いいのかな?」と常に考えないといけないと思いました。

昔、日本には身分制度があり、差別がある、それが当たり前前の時代がありました。大多数の人が特に問題意識を持つことなく、一部の人が傷ついていく、実際にそんなことがあったと思います。当たり前が正しいのではなく、傷つく人や苦しんでいる人がいることは「何か、おかしい」と感じる事ができる。そんな感覚を持つことが、差別や偏見を減らしていくことにつながるのではないかと思います。だからこそ人権学習は、生涯学習であり、自分の子どもにも伝えていかなければいけないと改めて感じる事ができました。

(六中校区常任委員 國見 静香)

### 被差別文化入門

～人権文化ゆかりの地～

豊中市人権教育推進委員協議会事務局長 西田 益久



1枚の写真がスライドに映された。数名の警察官を前に、マイクを持ち演説しているらしい人の後ろ姿がある。服装から若者であろうと想像できた。これは鶴橋で行われたヘイトスピーチの様子をとらえたもの。演説者は13歳の少女だという。

話は鶴橋のあゆみへと続く。

1500年ほど前、百済(古代朝鮮半島の国家)からの渡来人が当地に居住した。猪飼野・御幸森神社と仁徳天皇・猪甘津橋(つるのはし)と小野小町や長谷川貞信。東大寺大仏と百済王敬福・百済系渡来氏族である桓武天皇の生母の話など。

古代の人々が渡来人と共生する中で、優れた知識や技術の恩恵を受けたこと、それによって育まれた日本文化があることを知った。あらためて学びのたいせつさを痛感した。

(二中校区常任委員 林 久美子)





135号 阿倍野防災センター



141号 全国水平社創立の地



147号 ピース大阪

この  
10年間

あっち

こっち

141号 亀岡 関西盲導犬センター



138号 ATCエイジレスセンター



144号 リバティおおさか



144号 大阪地方裁判所



155号 上町七坂・四天王寺  
(フィールドワーク)

158号 大阪水上隣保館遥学園



見たり



144号 リバティおおさか

聞いたり

学んだり



138号 生野コリアタウン



135号 ATCエイジレスセンター

### 編集後記

監事 田上 磨智美

2020年のスタートとともに、世界中で拡大しはじめた新型コロナウイルス感染症は、まだまだ収束の見通しが立っていない状況です。

感染拡大防止対策として、これまでの社会のあり方が急激に変わっていく中で、感染者やその家族、最前線でコロナウイルスと闘う医療従事者に対する差別やいじめといった、予期しなかった人権上の問題も発生しています。こうした理不尽な状況をなくすためにも互いを思いやる心と人権意識をもって、新しい日常をどう生きていくかを一人ひとりが考えることが大切だと思います。

最後になりましたが、本号発行にあたり、ご執筆、ご投稿いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。